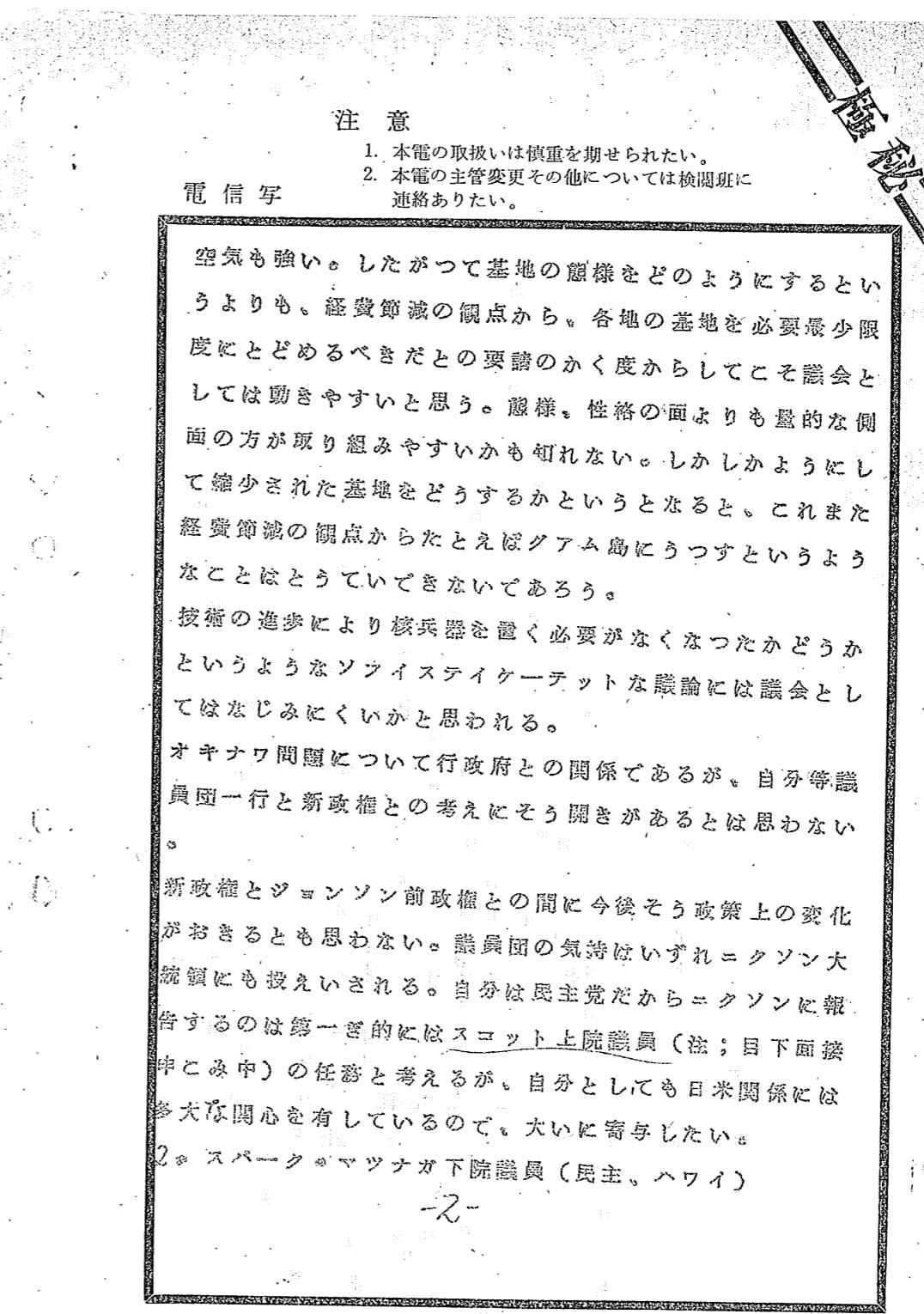
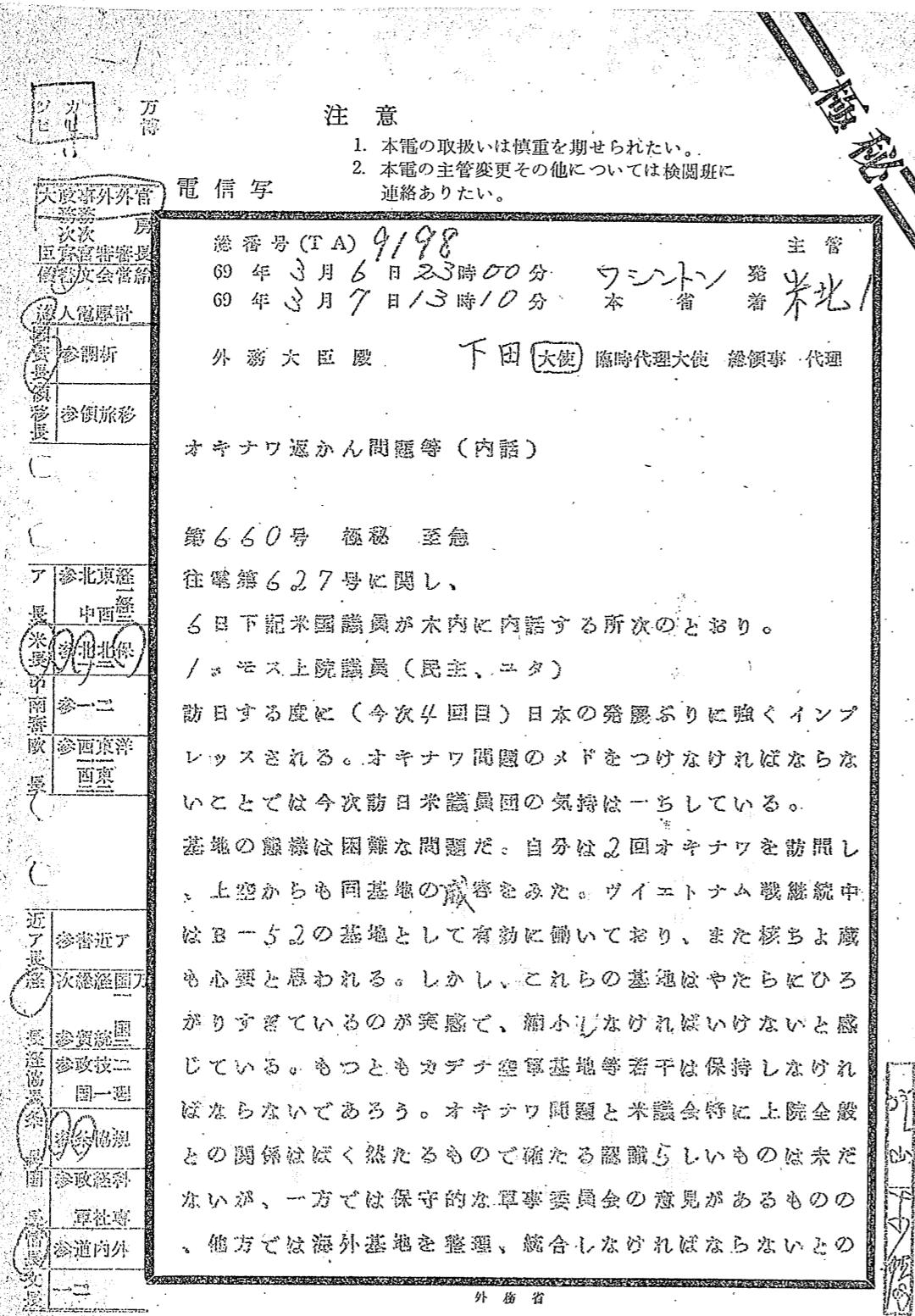


琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 米国関係（議員等発言(2)（講演、記者会見等）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43840

モス上院議員、マツナガ下院議員内話（昭四四・三・六）



注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電 信 写

今回接した日本本土の國民の関心はオキナワというよりも、住たく、賃金、物価、学費などの面で米国内と同じだと思った。オキナワで目のいるを変えているのは、政党とマスコミだけであるというが日本でのわれわれの率直な印象であつた。

しかし、オキナワを返かんすべきであるとの一行の認識には理解を寄り切らぬものがあつた。墓地の問題といつても難しく、米国に財政的負担ないしは多額の損失がかかるようでは解決はますます困難になると思う。

米国議会のオキナワ問題に対する認識はうすく、時間をかけてけいこうする必要がある。また、たとえば72年3月までに返かんするとのスドをつけることには賛成だが、日本側が余りせつづいているとの印象を免ることは得策でない。ヴィエトナム戦争が続いているということは米国民にとって厳しむくな事実であり、毎日中華人民共和国テレビに出たときも日本のあらゆる原作者にいたいがかりとなる旨訴えた

(3)